

.....

抗 HIV 薬予防服用説明書 : TDF/FTC (ツルバダ) RAL (アイセントレス)

.....

□ 服用の意義

針刺し事故などで HIV 汚染血液に曝露された場合の感染のリスクは、最も高い場合でも 0.3~0.5%とされており、B 型肝炎や C 型肝炎の同じような事故の場合の感染リスクに比べそれぞれ 1/100~1/10 と低いことは知られています。しかし、低いとはいえ この数字は感染リスクが 0%ではなく、1000 回の事故につき 3~5 人は感染するということを意味しています。しかも、今のところ感染が成立してしまった場合、治癒できるような治療法は確立されておりません。しかし一方、感染直後に抗 HIV 薬を服用することで感染のリスクを約 80%低下させうることが示されました。今回すすめている複数の抗 HIV 薬を服用すればさらに効果的であると考えられます。

予防服用により 100%感染を防げるわけではありませんが、予防服用を強くすすめる理由はこのためです。

□ 服用にあたっての注意点

感染予防の効果をあげるためには、初回の服用は、事故後できるだけ早くできれば 1 ~2 時間以内に予防薬を服用するのが望ましく 24~36 時間以後では効果が減弱する可能性があります。予防服用は、曝露事故等の受傷後 4 週間の継続服用が必要です。

□ 妊娠の可能性のある場合

大至急妊娠の有無を調べてください。

抗 HIV 薬の服用については、特に妊娠初期（最後に月経のあった日から 14 週間）の胎児に対する安全性は確立されておりません。妊婦の場合、責任医師と大至急、予防服用について相談してください。

□ 予防服用される抗 HIV 薬の注意点及び副作用

●TDF/FTC : ツルバダ配合錠

- ・ B 型肝炎を合併している患者では、投与中止により、B 型肝炎が再燃するおそれがあるので十分注意すること。
- ・ 腎不全・腎機能障害が発生することがある。
→特に B 型肝炎、腎機能障害をもつ場合は薬剤の変更を考慮する。
- ・ その他の副作用として、悪心、下痢、疲労、頭痛、皮膚色素過剰などがある。

●RAL : アイセントレス配合錠

- ・ 肝機能障害のある患者では肝機能障害を増悪させるおそれがある。
- ・ その他の副作用として、頭痛、横紋筋融解症、筋肉痛、肝機能障害などがある。